

【アゼルバイジャン経済トピック第 112 号】

在アゼルバイジャン日本大使館

2022 年 11 月 18 日

アゼルバイジャンの「インフォーマル・エコノミー」

バクーを訪問される多くの日本人の方から、整然とした街並み、人々で賑わう中心部やショッピングセンターの様子を見て、「これは 1 人当たり GDP が 5 千ドルの国ではありませんね」との感想を伺います。たしかに当地で暮らす我々の生活実感としても、治安や各種施設の整備、モノの豊かさなどから、「途上国以上、先進国未満」の印象があります。

もちろん、人口 1 千万人のアゼルバイジャンにあって、首都バクー(統計上 230 万人、実際には 300 万人超)とその他の地方との間で経済格差はありますが、地方でも意外とインフラ整備が進み、人々の生活水準もそれなりなので、バクーが特別という訳でもなさそうです。

そこで、世銀が公表している「インフォーマル・エコノミー」(非公式経済、すなわち GDP に含まれない経済)に関するレポート(2018 年版)を見ると、アゼルバイジャンのインフォーマル・エコノミーの規模は GDP の 53.3%とされています。当国の 1 人当たり GDP は最新統計(22 年 9 月)で 5,730 ドルなので、これに(時点が異なりますが)53.3%を掛けた 3,050 ドルのインフォーマル・エコノミーが存在し、合計 8,780 ドルが実態を反映した 1 人当たり GDP ということになります。

このような相当規模のインフォーマル・エコノミーが存在する理由として、4,000 万人とも言われる在外アゼルバイジャン人(多くはイラン、ロシア、トルコ等)からの多額の現金持ち込み(ハンドキャリー)、不正・汚職の存在(電子手続きの進展、政府の対策により減少している由)、当局の経済活動の捕捉・徴税能力の不備(これも近年強化中)などが考えられます。

当国が経済成長する中で、これらのインフォーマル・エコノミーの存在要因が解消されることを期待したいところです。

(以上)